



南米に活路あり 希望者にてる支渡金

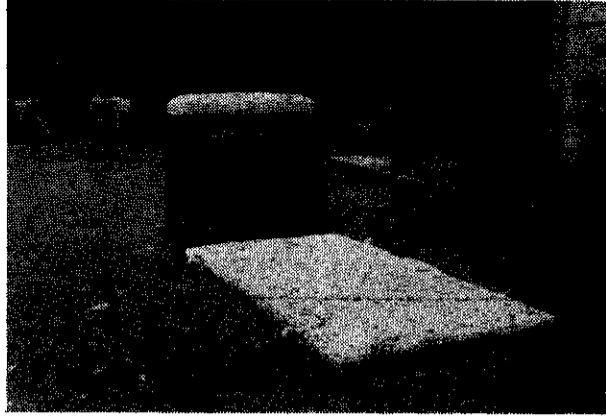
戦後、中南米へ移住の道が開けてから七年目になり、移住を希望する人もふえてきました。昭和三十四年度には、六十二家族の百十一名を送り出しました。こんども県の海外協会は、移住の世話をしてくる人を送ろうと計画しています。

戦後、中南米へ移住の道が開けてから七年目になり、移住を希望する人もふえてきました。昭和三十四年度には、六十二家族の百十一名を送り出しました。こんども県の海外協会は、移住の世話をしてくる人を送ろうと計画しています。

これは戦後、中南米へ移住の道が開けてから七年目になり、移住を希望する人もふえてきました。昭和三十四年度には、六十二家族の百十一名を送り出しました。こんども県の海外協会は、移住の世話をしてくる人を送ろうと計画しています。

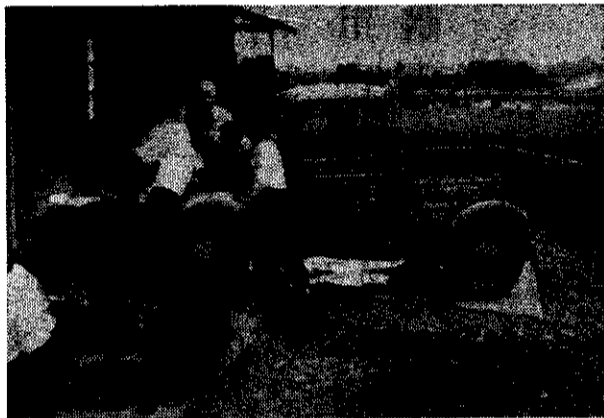
この辺の中学校では、教材用に自動車の「自」の字もないのが多い中で、ここ小幡中学校は、生徒の教材にと寄贈さる

住民登録の実態調査
九月十五日現在で住民登録の実態調査を行ないます。この調査は、選挙権、印鑑証明、子どもの入学、成人式、その他いろいろ日常生活に関係する重要なもので、各世帯の実態をつかんで、正しい住民票をつくるために行なわれます。



那須分校にとび箱届く 寄贈者は4人の青年

さる8月1日、当町の最奥地にある那須分校にとび箱一つと体育用マット1枚が贈られ、31人の児童を喜ばせています。贈り主は同分校出身者の浅香美知雄君(30才)と、浅香満君(27才)、中野一作君(25才)、中村富次君(22才)の4人です。同君らは、現在東京都文京区湯島天神町1の42に住み、荒井木工所に勤務しています。



—写真(上)は新井さんから贈られたダツトサン(下)は飯塚さん寄贈のモーリス

新生活と貯蓄の話

預金証書で結婚祝い

「友だちの結婚祝いに何を差し上げたらよいかは、いつも悩まされる問題です。よく考えて選んだ品物が、他の人とダブっていたりしてがっかりさせられることがよくあります。そこで、私は数年前から定期預金証書を差し上げ

(3)

この定期預金も大きく突るでしょう。と書いた手紙をそえて……

先日も『あなたにいただいた定期預金をキツカケに坊やの誕生日ごとに定期預金証書一枚ずつ増やして行きます』と楽しいお便りをいただき、私はこの上もない喜びにひたついています。

金沢市材木町にお住いの土橋登志子さんのお話です。

貯蓄実践例第三集から

入隊時の感想

陸上自衛隊第一〇四教育大隊第五共通教育中隊三区隊第六班

造石出身 春山芳久
故郷をはなれて異郷へ来た気持ちは「さびしいやら」「楽しいやら」変な気持ちだった。厳正で、規律正しい生活に希望もえ、一生けん命やつて行こうと思つた。階級の上の人を見るとうらやましく思い、自分もあのようになれたらどれほどうれしいだろうと思つた。先輩や町村又群馬隊のためにも、できることまでがんばって行こうと思ひます。

小幡中に自動車二台

生徒の教材にと寄贈さる

校長吉田金蔵)では二台の自動車を所有し、生徒のエンジン教育に効果をおぼえています。恵まれてるのは生徒ばかりではありません。指導の先生方も自然練習ができ、免許証が取得できるというものです。現在までに佐藤、角倉(現新屋教場)の両先生が免許皆伝を得ています。この自動車を、いずれも次の人たちの寄贈によるものです。

その一
五三年式ダツトサン一台。寄贈者は、現在東京都世田谷区深沢町三丁目五三番地に住む新井孝さん(31才、大字上野出身)、寄贈日は昭和三十四年二月十五日。



その二
モーリス(イギリス製)中古車一台。寄贈者は大字小幡の飯塚勝久さん(56才、現飯塚金属社長、町会議員)、寄贈日、昭和三十五年七月十一日。

第2回体育祭ひらく 10月2日—福島教場で

主催 甘楽町教育委員会
甘楽町体育協会

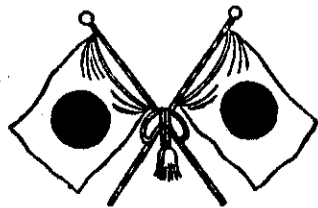


全町民の体位向上と……親睦をはかり……平和な甘楽町をつくるために……
競技種目 陸上、庭球、卓球、柔剣道、柔道

日の丸あります

日の丸のはたの売り残りがあります。お求めの方は総務課へ。

玉6個 1個25円
ハタ1枚 1枚75円



九月十五日現在で住民登録実態調査と選挙人資格調査が行なわれます。調査票には世帯員を正しく記入いたしましたよう。

服即着 明るい一家

